

研究・教育のご紹介 入試のご案内



TOHOKU
UNIVERSITY

東北大学大学院 教育学研究科 総合教育科学専攻
教育情報アセスメントコース

教育情報アセスメントコース 案内

東北大学大学院 教育学研究科 総合教育科学専攻 教育情報アセスメントコース

ICT やデータサイエンスを活用した「教育イノベーション」の創出をめざす。

教育評価測定論（専門領域）

自然言語処理，計量心理学等を含むデータサイエンスを基盤分野として，STEAM教育の時代にふさわしい教育アセスメントの社会実装を目指した研究をする。

教育情報デザイン論（専門領域）

e ラーニングやメディア技術・AI/ロボット技術などを活用した，新しい教育のあり方（教育方法・教育環境など）を探究する。

修士課程（博士前期 2 年の課程）→ 修士（教育学） or 修士（教育情報学）
博士課程（博士後期 3 年の課程）→ 博士（教育学） or 博士（教育情報学）

教育情報アセスメントコース 教育評価測定論 教員紹介

柴山 直 教授

教育評価測定論

人の適性・性格・知的能力等を心理学的モデルを通して合理的に数値化することを目標とする教育測定学が中でも専門です。研究の重心を「理念・信念・思い込み」で判断されがちな教育ではなく、客観的なエビデンスにもとづく教育における Evidence Based Accountability の実現においています。また、小論文のAIによる自動スコアリングなどの研究を通して機械学習理論を含むデータサイエンスもカバーしています。

有本 昌弘 教授

教育評価測定論

知識基盤社会への移行やその中での学習の性質の変化に伴い顕著となった格差問題や地域の崩壊は、様々なスクール・ベースト・プロジェクトを必要としています。さらに、震災を機にして OECD-Tohoku School Project が立ち上がっています。そこでは、日本の教師や学校、地域を国際的な議論からエンパワーする埋もれた暗黙知の掘り起こしを可能とし、教師の専門職業人としてのキャリア発達（スクールリーダーシップ）デザインに結び付ける絶好の機会となります。その際に、アセスメントは、政策と実践をつなぐ議論の強力な切り口となります。

熊谷 龍一 准教授

教育評価測定論

テスト理論の一つである「項目反応理論 (Item Response Theory: IRT)」を軸とした、言語・学力・特性テストに関する研究を進めています。数式・計算機言語を多用することから、とかく「理系」視されがちですが、あくまでそれらは「道具」であり、文系・理系を問わず、如何に道具を正しく使うことができるかが重要だと考えています。テスト結果ばかりが目されがちですが、それを背後で支えている理論について考えていきます。

松林優一郎 准教授

教育評価測定論

H31年度新設の新しい研究室です。情報科学と教育学の高度な知識とスキルを身につけられる文理横断的教育カリキュラムを取っています。人工知能・自然言語処理が専門です。言語処理×教育アセスメント：人間の知的活動の表出であるテキストデータを使って人間の思考力のアセスメントを試みています。書籍、ブログ、会話、試験の採点データ等の大規模データを背景に、統計や人工知能を用いた高度な情報分析技術で人間の思考の過程に迫り、人間の客観的な能力評価や人工知能技術の発展を下支えする研究を行っています。

佐藤 智子 准教授（協力講座教員）

教育情報応用論（高度教養教育・学生支援機構）

教育を受け学習する場としてまず思い浮かべるのは学校かもしれませんが。しかし、私たちが学習しているのは学校の間だけではありません。実際には大人も子どもも、地域社会や日々の生活の中に埋め込まれて多くのことを学習しています。現代、社会構成主義的な学習観へと転換する中で、多様な「他者」との協同的な学びが求められています。そのような社会的な文脈で人がどのように学び、どのような能力や知識を獲得しているのか（生涯学習論）、効果的な学習を環境や支援として促す具体的な環境デザイン（教育制度・政策論）やその支援方法（学習支援方法論）とはどのようなものかに関心を持って研究を行っています。

教育情報アセスメントコース 教育情報デザイン論 教員紹介

渡部 信一 教授

教育情報デザイン論

人間の「知」や「学び」の探究を「コンピュータ、ロボット、そして人工知能と比較して考える」という方法、つまり「人間と機械を比較する」ことによって、そのメカニズムを明らかにしようとしています。

小嶋 秀樹 教授

教育情報デザイン論

認知科学（とくに脳機能やコミュニケーション能力の発達）の研究をしています。認知過程・発達過程のモデル化や、ロボット・人工知能による構成論的実証、教育・障害児療育への実践的応用などを進めています。

熊井 正之 教授

教育情報デザイン論

教育、特別支援、障害、情報をキーワードに、障害のあるひととないひとと共に学びやすい・暮らしやすい環境とはどのようなものか、ひとりひとりのQOLの向上につながる仕掛けとはどのようなものかについて、教育学的、心理学的、教育情報学的研究を行います。

倉元 直樹 教授（協力講座教員）

教育情報応用論（高度教養教育・学生支援機構）

基礎を置いている分野は教育心理学の教育測定分野です。近年は、学問分野にとらわれずに東北大学の学部入試の改善や日本の大学入試の改善を目的とした研究を中心に幅広いテーマで取り組んできました。

<https://www.adrec.ihe.tohoku.ac.jp/>

<http://adchan.ihe.tohoku.ac.jp/>

宮本 友弘 教授（協力講座教員）

教育情報応用論（高度教養教育・学生支援機構）

学力とその規定要因（動機づけ等）に着目し、それらの測定・評価、支援について教育心理学的なアプローチから研究を行っています。教科学習だけでなく、大学入試や生涯スポーツなど、さまざまな分野を対象にしています。

佐藤 克美 准教授

教育情報デザイン論

ICTを用いて学習者の学びを支援しようと試みています。教授者・指導者が学習者を支援するためのICT活用ではなく、学習者が自らの目的・意志に応じて使うICTが生む学びの変化について関心を寄せています。

中島 平 准教授

教育情報デザイン論

情報通信技術を利用して、学びを支援し促進させるための研究をしています。例えば学びの場を記録するときに、単に映像の記録だけでなく、場に参加している人たちの「気づき」や「思い」を加えることで、その学びの振り返りを、より簡単で有意義なものにするシステムの研究をしています。

教育情報アセスメントコース 入試案内

入学試験について（修士課程）

3～4

第1期（9月~~11～12~~日）

第2期（1月23～24日）

27～28

一般選抜

外国語 90分（英語（外国人の場合は日本語）、辞書持込**不可**）

専門試験 120分（教育情報アセスメントコースの専門領域）

面接（第2日目に実施）

社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜

小論文 120分

面接（小論文と同日実施を予定。志願者数によっては2日目に実施）

教育情報アセスメントコース 入試案内

入学試験について（博士課程）

第1期（9月11日）：社会人特別選抜のみ）

第2期（1月23～24日：一般選抜・社会人特別選抜）

一般選抜

外国語 120分（英語（外国人の場合は日本語）, 辞書持込可）

面接（第2日目に実施；10分間のプレゼンを含む）

社会人特別選抜（第1日目のみ）

面接（10分間のプレゼンを含む）

教育情報アセスメントコース 入試案内（連絡先）

研究計画についての相談は

柴山	sibayama@tohoku.ac.jp
有本	arimoto@sed.tohoku.ac.jp
熊谷	ryuichi@tohoku.ac.jp
松林	y.m@tohoku.ac.jp
佐藤智	sato-t@tohoku.ac.jp
渡部	watabe@tohoku.ac.jp
小嶋	xkozima@tohoku.ac.jp
熊井	kum@tohoku.ac.jp
倉元	ntkuramt@tohoku.ac.jp
宮本	tomohiro@tohoku.ac.jp
佐藤克	sato@ei.tohoku.ac.jp
中島	nakag@ei.tohoku.ac.jp

入試や修学に関する問い合わせは

研究科ウェブサイト
<http://www.sed.tohoku.ac.jp/>
教育学研究科 教務係
sed-kyomu@grp.tohoku.ac.jp
tel. 022-795-6105
fax. 022-795-6110